身体障害障害程度等級表

		7 Y	4 P	早古	P무		工土	IX,	43	秋	11			
級			肢	体		不		自		由				指
別	上	肢		下	:		Į.	支			体		幹	数
級	1. 両上肢の機能を全廃したもの 2. 両上肢を手関節以上で欠く			. 両下肢					もの			より座って	いることができ	18
二 級	1. 両上肢の機能の著しい障害 2. 両上肢のすべての指を欠く 3. 一上肢を上腕の2分の1以 4. 一上肢の機能を全廃したも	上で欠く	2	. 両下肢。				で欠く	もの	保つ 2. 体	ことが困難	かもの	位又は起立位を	
Ξ	1. 両上肢のおや指及びひとさの 2. 両上肢のおや指及びひとさ全廃したもの 3. 一上肢の機能の著しい障害		2	. 両下肢: . 一下肢: . 一下肢:	を大腿の	2分の	1以上	で欠く		体幹の	機能障害に	より歩行か	困難なもの	7
級	4. 一上肢のすべての指を欠く 5. 一上肢のすべての指の機能 の	もの を全廃した 	きも					-						
四	 両上肢のおや指を欠くもの 両上肢のおや指の機能を全 一上肢の肩関節、肘関節又はち、いずれか一関節の機能をき 一上肢のおや指及びひとさの 一上肢のおや指及びひとさ 	は手関節の全廃したる	の 2 のう 3 もく 4 能を		のすべて を下腿の の機能の の股関節	の指の 2分の 著しい を では 膝	機能を 1以上 障害 関節の	:全廃し :で欠く :機能を	もの					4
級	全廃したもの 6. おや指又はひとさし指を含む 三指を欠くもの 7. おや指又はひとさし指を含む 三指の機能を全廃したもの 8. おや指又はひとさし指を含む 四指の機能の著しい障害	めて一上店	支の	. 一下肢x の長さの1					健側					T
五	1. 両上肢のおや指の機能の著 2. 一上肢の肩関節、肘関節又 ち、いずれか一関節の機能の 3. 一上肢のおや指を欠くもの 4. 一上肢のおや指の機能を全! 5. 一上肢のおや指及びひとさる 著しい隨客	は手関節の 著しい障害 発したも の	のう 客 2 3	. 一下肢の い障害 . 一下肢の . 一下肢の の長さの	の足関節が健側に	の機能比して	を全廃 5 cmじ	したも (上又は	0	体幹の	機能の著し	い魔暑		2
級	者しい障害 6. おや指又はひとさし指を含む 三指の機能の著しい障害	めて一上服	支の											
六	1. 一上肢のおや指の機能の著 2. ひとさし指を含めて一上肢の もの			. 一下肢。 . 一下肢。										1
級	3. ひとさし指を含めて一上肢で を全廃したもの	の二指のも	幾能											1
七	1. 一上肢の機能の軽度の障害 2. 一上肢の肩関節, 肘関節又は ち, いずれか一関節の機能の 3. 一上肢の手指の機能の軽度 4. ひとさし指を含めて一上肢の あ著しい障害 5. 一上肢のなか指, くすり指	経度の障害 の障害 の二指の根	かう 多 数能 4 5	ち の	の機能の の股関節 れか一関 のすべて	軽度の 灰膜 節の が の 指を	障害 節又は 能の朝 欠くも	足関節 度の障	iのう i客					0.5
級	くもの 6. 一上肢のなか指, くすり指, 能を全廃したもの		6	・一下肢が の長さの2			_		健側					

- ※1. 同一の等級について2つの重複する障害がある場合は、1級うえの級とする。ただし、2つの重複する障害が特に本表中に指定されているも ※1. 同一の等級について2つの重複する障害がある場合は、1 赦つえの赦とする。たたし、2 つの重複する障害が特に本表中に指定されているものは、該当等級とします。
 2. 肢体不自由においては、7 級に該当する障害が2 つ以上重複する場合は、6 級とします。(手帳対象は6 級以上です。)
 3. 異なる等級について2 つ以上の重複する障害がある場合については、障害の程度を勘案して、当該等級より上位の等級とすることができます。
 4. 「指を欠くもの」とは、おや指については指節問関節(I P)、その他の指については近位指節問関節(P I P)以上を欠くものをいいます。
 5. 「指の機能障害」とは、中手指関節以下の障害をいい、おや指については、対抗運動障害をも含むものとします。

- 6. 上肢又は下肢欠損の断端の長さは、実用長(上腕においては液窩より、大腿においては坐骨結節の高さより計測したもの)をもって計測した ものをいいます。
 7. 下肢の長さは、前腸骨棘より内くるぶし下端までを計測したものをいいます。
 8. 障害認定時期(おおむね下記期間経過後に診断書を作成してください。)
 ① 脳 血 管 障 害…発症からおおむね6か月経過後
 (脳梗塞等が再発している場合は、再発から6か月経過後となる。)

- (腐校巻等か内完している場合は、内完からもか月経過後ではる。)
 ② 脊髄 (頸髄) 損傷…発症からおおむねらか月経過後、ただし、外傷性による完全麻痺の場合は、おおむね3か月経過後 (MRI画像添付)
 ③ 遷 延 性 意 蔵 障 書…発症からおおむねらか月経過後
 ④ 切 断…術後
 ⑤ 人 工 関 節 置 換…術後からおおむね3か月経過後
 ※同一疾患により下肢と体幹の障害が重複する場合、
 その終合等級は 原則として指数合質を行わたいこと

- ⑥ その他の疾病、外傷…発症、受傷からおおむね1年経過後

(骨折等で手術を行っている場合は、術後から1年経過後)

その総合等級は、原則として指数合算を行わないこと

手帳交付迅速化のため、障害程度等級 (1 百)

J 12		- 1 -2		_,_		_
障	害	等	級	指	数	
	1	級		1	8	
	2	級		1	1	l
	2 3 4 5	級		1	7	l
	4	級		4	4 2	l
		級		1	2	l
	6	級			l	ı
	7	級		0	.5	

の、呼音狂及	サベハ・ス
合計指数	認定等級
18 以上	1 級
11 ~ 17	2 級
7 ~ 10	3 級
4 ~ 6	4 級
2 ~ 3	5 級
1	6 級

	上		肢	下		肢	体		幹
	級	番号	指数	級	番号	指数	級	番号	指数
									ļ
- 1		=1.			=1			51	
- 1	合	計		合	計		合	計	
	上肢		指数	下肢		指数	体幹		指数
	工版		級	1 /100		級」	FF +1		級
							総計		指数
							形心 百		級

様式第1号

身体障害者診断書・意見書(肢体不自由用)

総 括	表											
氏 名	<u></u>				大昭 平 和 成 和	年	月	Ī	日生()歳	男	女
住 彦	fr				рүн							
①障害名	名(部位を	明記)										
-/1	となった ・外傷名					交通, 戦災,		その代先天性		放,戦傷, の他(自然	·災害)
	外傷発生	年月日	平成	年	J]	日·	場所				
④参考と	こなる経過	・現症(エックス線	写真及で	び検査剤	f見を 含	さむ。)					
		障害固	定又は障領	害確定	(推定)		P成 令和		年	月	E	1
※原 を	記入してく	障害の程 ください。	不要 度が <mark>軽減で</mark> また、再記 こ変化が生	・ する 可能 忍定「要	性があ	る場合 た理由	を、⑤約	「要」と 公合所見	こし、記機等に			時期
⑥ その	他参考とた	なる合併症	状									
上記の	令和	:断する。(年 (は診療所	并せて以下 月 の名称 ・	の意見る 日	を付す。							
			の日本 · の所在地:									
		当科名:			——— 科	互	師氏名	:				
									意見を 目当)	記入〕		
注意	両上下 能著し 頚髄指	肢機能全 い障害等) 傷、パー	の欄には、 『 廃、右上下』 を記入し、 キンソン病 [』]	技機能全 「②原因 等 <u>障</u> 害を	廃、左 となった きたすし	投関節 た疾病・ に至っ7	幾能全廃 外傷名 た具体的	、左下 」には、 Jな疾患	肢機能 脳梗塞 名 を記	著しい障 、慢性関質 入してく	害、体 うリウン ださい	幹機 マチ、 。
	てくた 3 新 規 4 障割	ごさい。 見申請で 7 写区分や等	化のため、 級に該当す 級決定のた 場合があり	「 る障害 」め、岡	1つの	みでは	手帳交信	付の対象	象とは	なりませ	ん。	

[R7]

肢体不自由の状況及び所見

神経学的所見その他の機能障害(形態異常)の所見(該当するものを○で囲むこと。)

1. 感覚障害(下記図示):なし・感覚脱失・感覚鈍麻・異常感覚

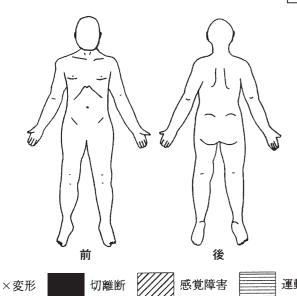
2. 運動障害(下記図示): なし・弛緩性麻痺・痙性麻痺・固縮・拘縮・不随意運動・振戦・運動失調・その他

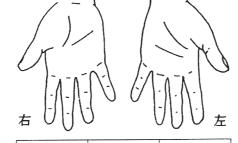
3. 起因部位 : 脳・脊髄・末梢神経・筋肉・骨関節・その他

4. 排尿・排便機能障害: なし・あり5. 形態異常: なし・あり

参考図示

注:切断の場合は、前腕、上腕、大腿、下腿の 1/2以上か否か(手指の場合はPIP・IPの有無)を 明記して下さい。





 右
 左

 上肢長cm

 下肢長cm

 上腕周径cm

 前腕周径cm

 大腿周径cm

 下腿周径cm

 握力kg

注 関係ない部分は記入不要

動作・活動 $= 10^{-0}$ 自立= 0 , 半介助= 0 , 全介助又は不能= 0 , 0 の中のものを使う時はそれに= 0 0

寝返り)する				排泄の後始末をする	右	左			
足を投	とげ出して座	図る(背もたれ	1, 支え)		(箸で) 食事をする (スプーン, 自助具)	右	左			
椅子に	に腰かける	(背もたれ, ラ	支え)		コップで水を飲む	右	左			
正座		あぐら	横座り		ブラシで歯を磨く (自助具)	右	左			
洋式便	見器に座る				顔を洗いタオルで拭く	右	左			
臥位又	くは座位より)立ちあがる			タオルをしぼる					
(他人	., 手すり, 🛭	壁, 柱, 杖, 松乳	葉杖,義肢,装具)		背中を洗う					
家の中の移動 (壁, 杖, 松葉杖, 義肢, 装具, 車椅子)					二階まで階段を上って下りる (手すり, 杖, 松葉杖)					
シャツ	/を着て脱く	***			屋外を移動する (家の周辺程度) (杖,松葉杖,車柱	奇子)				
ズボン	をはいて朋	えぐ(自助具))		公共の乗物を利用する					

(注) 身体障害福祉法の等級は機能障害 (impairment) のレベルで認定されますので () の中に○がついている場合、原則として自立していない (半介助△) という解釈になります。

◎ 歩行能力及び起立位の状況 (該当するものを○で囲む)

 (1) 歩行能力
 〔補装具なし〕
 正常・ m・km程度・ 不能 ※補装具() 使用で m・km程度

 (2) 起立位保持
 〔補装具なし〕
 正常・ 分程度・ 不能 ※補装具() 使用で 分程度

計 測 法:

上肢長:肩峰→橈骨茎状突起 前腕周径:最大周径

下肢長:上前腸骨棘→ (脛骨) 内果 大腿周径:膝蓋骨上縁上10cmの周径 (小児等の場合は別記)

上腕周径:最大周径 下腿周径:最大周径

関節可動域(ROM)と筋力テスト(MMT)(この表は必要な部分を記入)

方面	新配)	前屈	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90	後屈	()	頸	().	左屈	90 60 30 0 30 60 90 120 150 18	o 右屈	(
The content of the	A							<i>,</i> , ,						
	内転			VIIIIIIII : *//Y//				半十				90 60 30 0 30 60 90 120 150 18		
)	屈曲		伸展)		(VVVVVVVVVVVVVVVVVVVVVVVVVVVVVVVVVVVVVV		
Part	DE			TUTTI TO THE TOTAL OF THE TOTAL				肩				11:11:11:11:11:11:11:11:11:11:11:11:11:		
回外	Decoration				内旋	()		()	内旋		外깵	(
文字屈 有屈 (** 算屈 ** 其足 ** 其足 <t< td=""><td>)</td><td>屈曲</td><td></td><td>伸展</td><td>(</td><td></td><td></td><td>(</td><td>)</td><td>伸展</td><td></td><td>屈曲</td><td>(</td></t<>)	屈曲		伸展	(()	伸展		屈曲	(
Ram	Death)	回外		回内	()	前腕	()	回内		回外	(
Read	RE)	掌屈		背屈	()	手	()	背屈		掌屈	(
Read	REM)	屈曲	V////////////////////////////////////	伸展	()	中	()	伸展	每约/////	屈曲	(
) 屈曲 ////////////////////////////////////	Red			//////////////////////////////////////	伸展	()	手	()	伸展	宗///	屈曲	(
Death	Read			//////////////////////////////////////	伸展	()	節	()	伸展	(年分// : ' : ' : ' : ' : ' ////////////////	屈曲	(
) 屈曲 /// // // // // // // // // // // // //	Read			(A/YA/YA/YA/A/),					(7// 6/94	屈曲	(
) 屈曲 ////////////////////////////////////	Ram								(\$\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	屈曲	(
) 屈曲 ////////////////////////////////////	Ram)	屈曲	(/////////////////////////////////////	伸展	()	近	()	伸展	每//////	屈曲	(
) 屈曲 ((())) (())) (()))屈曲 (())(())(())(())(())(())(())(())(())(((/////////////////////////////////////)	指	((宗)[[[]]]	屈曲	(
) 屈曲 ////////////////////////////////////)屈曲 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)			//////////////////////////////////////			,	鄮	(
) 屈曲 () () () () () () () () () () () () () () 屈曲 (180 150 120 90 60 30 0 30 60 90 (180 150 120 90 60 30 0 30 60 90 (180 150 120 120 150 180 (180 150 120 90 60 30 0 30 60 90 (120 150 180 (180 IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII			//////////////////////////////////////)		(ALLEN VALVE COLUMN TO THE RESIDENCE OF THE PROPERTY OF THE PRO		
180 150 120 90 60 30 0 30 60 90	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90 Part			\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\)		Ò					
)屈曲 () 伸展 () 伸展 () 种展 () 种展 () 外転() 外転() 外転() 外転() 内旋() 内)屈曲 () 伸展 () 伸展 () 种転 () 外転 () 个块			180 150 120 90 60 30 0 30 60 90				$\overline{}$	`	,		90 60 30 0 30 60 90 120 150 180		
) 外転 ////////////////////////////////////) 外転 // // // // // // // // // // // // //)		ועעכעעער וויין וויין די אמע דעער		()		()	伸展		屈曲	(
) 外旋 ////////////////////////////////////)外旋 ////////////////////////////////////)	胖	(77777777777		
) 底屈 /////////////////////// 背屈 () 足 () 背屈 //////////////////////////////////) 底屈 //////////////////////			10070000000000000000000000000000000000				***						
	黄 考)	屈曲		伸展	()	膝	()	伸展		屈曲	(
	# 考)	底屈		背屈	()	足	()	背屈		底屈	(
		声 考												
I. 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。 5:筋力正常(筋力5該当)									2					
[. 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。 5:筋力正常(筋力5該当)		する	表示	法とする。	-					(PI	P) の項母指は (IP) 関節:	を指す	0
 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。 関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。 5:筋力正常(筋力5該当) ※認定要領では、筋力4、5該当は○印の評価をあず、判定上必要なため、数字を記入する。 (PIP)の項母指は(IP)関節を指す。 	外科学会,日本リハビリテーション医学会の指定 する表示法とする。												を示は	必要
 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。 関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。 関節可動域の図示は、 ◄ → ▶ のように両端 6. DIPその他手指の対立内外転等の表示は必要 	外科学会,日本リハビリテーション医学会の指定 する表示法とする。 3. 関節可動域の図示は、 I◀──── のように両端 6. DIPその他手指の対立内外転等の表示は必要				。短	旦の場	勿 亡						堂節	囲め
 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。 関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。 関節可動域の図示は、 ◄ → のように両端に太線をひき、その間を矢印で結ぶ。強直の場合 5: 筋力正常(筋力5該当) ※認定要領では、筋力4、5該当は○印の評価をるが、判定上必要なため、数字を記入する。 (PIP)の項母指は(IP)関節を指す。 6. DIPその他手指の対立内外転等の表示は必要に太線をひき、その間を矢印で結ぶ。強直の場合 	外科学会,日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。 まる表示法とする。 3. 関節可動域の図示は、 ★ → のように両端に太線をひき、その間を矢印で結ぶ。強直の場合 応じ備考欄を用いる。				×. △	印. 4	5な	3 .						
 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。 関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。 関節可動域の図示は、 → → のように両端に太線をひき、その間を矢印で結ぶ。強直の場合は、強直肢位に波線({})を引く。 5:筋力正常(筋力5該当) ※認定要領では、筋力4、5該当は○印の評価をあが、判定上必要なため、数字を記入する。 (PIP)の項母指は(IP)関節を指す。 DIPその他手指の対立内外転等の表示は必要応じ備考欄を用いる。 応じ備考欄を用いる。 図中ぬりつぶした部分は、参考的正常範囲外のように 	外科学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。 3. 関節可動域の図示は、 I ◆ → M のように両端に太線をひき、その間を矢印で結ぶ。強直の場合は、強直肢位に波線({})を引く。 るが、判定上必要なため、数字を記入する。 (PIP)の項母指は(IP)関節を指す。 6. DIPその他手指の対立内外転等の表示は必要応じ備考欄を用いる。 7. 図中ぬりつぶした部分は、参考的正常範囲外			, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	,	. , , 1,	J &	- reconsenses					.,	/
 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。 関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。 関節可動域の図示は、 ◄ → のように両端に太線をひき、その間を矢印で結ぶ。強直の場合は、強直肢位に波線({)を引く。 5:筋力正常(筋力5該当) ※認定要領では、筋力4、5該当は○印の評価をあが、判定上必要なため、数字を記入する。 (PIP)の項母指は(IP)関節を指す。 DIPその他手指の対立内外転等の表示は必要には、強直肢位に波線({)を引く。 7. 図中ぬりつぶした部分は、参考的正常範囲外の 	外科学会,日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。 3. 関節可動域の図示は、 I ◆ → M のように両端に太線をひき、その間を矢印で結ぶ。強直の場合は、強直肢位に波線({)を引く。 4. 筋力については、表 () 内に×、△印、4、5を 部分で、反張膝等の異常可動はこの部分にはみ		门:角	筋力が消失又は著減(筋力 0,	1, 2	該当)	TOTAL STATE	伢	1 3	下		l con iii	, .
 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。 関節可動域は、基本肢位を0度とする日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。 関節可動域の図示は、 → → のように両端に太線をひき、その間を矢印で結ぶ。強直の場合は、強直肢位に波線({)を引く。 筋力については、表()内に×、△印、4、5を記入する。 ※認定要領では、筋力 4、5 該当は○印の評価をるが、判定上必要なため、数字を記入する。 (PIP)の項母指は(IP)関節を指す。 のIPその他手指の対立内外転等の表示は必要応じ備考欄を用いる。 図中ぬりつぶした部分は、参考的正常範囲がある。 部分で、反張膝等の異常可動はこの部分にはるし記入となる。 例 示 	外科学会,日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。 3. 関節可動域の図示は、 → → のように両端に太線をひき、その間を矢印で結ぶ。強直の場合は、強直肢位に波線({)を引く。 4. 筋力については、表 ()内に×、△印、4、5を記入する。 ×印:筋力が消失又は著減(筋力 0、1、2 該当)		J : 飠	5刀半減(筋力3該当)					1	(×)伸	哦/////// ├── /////	屈曲	(\(\triangle \)
 1. 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。 2. 関節可動域は、基本肢位を 0 度とする日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。 3. 関節可動域の図示は、 → → のように両端に太線をひき、その間を矢印で結ぶ。強直の場合は、強直肢位に波線(ξ)を引く。 4. 筋力については、表() 内に×、△印、4、5を記入する。 ※認定要領では、筋力 4、5 該当は○印の評価をるが、判定上必要なため、数字を記入する。 (PIP)の項母指は(IP)関節を指す。 6. DIPその他手指の対立内外転等の表示は必要には構を用いる。 7. 図中ぬりつぶした部分は、参考的正常範囲を記入する。 ※ 公司・筋力が消失又は著減(筋力 0、1、2 該当) 	外科学会,日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。 3. 関節可動域の図示は、 → → のように両端に太線をひき、その間を矢印で結ぶ。強直の場合は、強直肢位に波線({)を引く。 4. 筋力については、表 ()内に×、△印、4、5を記入する。 ×印:筋力が消失又は著減(筋力 0、1、2 該当)							3						